

平成23年8月3日

周南市長 木村 健一郎 様

徳山地区地域審議会
会長 國 富



徳山地区地域審議会からの提言（第2次）について

周南市におかれましては、まちづくり総合計画に基づき、市民と一体となって地域の振興に取り組まれていることに対し、心から敬意と感謝を申し上げます。

さて、徳山地区地域審議会では、複雑かつ多岐に及ぶ地域の問題に幅広く対応するため、「ものに関する部会」と「ひとに関する部会」の各部会に分かれ、これまで審議を進めてまいりました。

つきましては、徳山市、新南陽市、熊毛郡熊毛町及び都濃郡鹿野町の廃置分合に伴う地域審議会の設置に関する協議書第3条第2項の規定に基づき、次のとおり提言いたします。

諸事情をご賢察の上、ご検討いただきますようお願い申し上げます。

記

提言事項

1. 観光の振興
2. 周辺地域の活性化
3. 子育て支援と食育
4. 福祉・生涯学習
5. 交流の場の創出

第4期徳山地区地域審議会最終提言【第2次】

周南市の各地区の中でも、徳山地区は工業地帯から中心市街地、周辺地域まで広範囲に及ぶため、様々な特色を持ち合わせております。

そのため、中心市街地の活性化をはじめ、中山間地域の振興、さらには教育・福祉の増進など地域の課題も多岐に及ぶとともに、これら地域課題は、昨今の人口減少、少子高齢化などの社会情勢の急速な変化の中で非常に複雑なものとしております。

徳山地区地域審議会では、このような複雑かつ多岐に及ぶ地域の問題について幅広く対応するため、『ものに関する部会』と『ひとに関する部会』の各部会に分かれこれまで議論してきました。

『ものに関する部会』は特に地域の活性化の視点に立ち、「観光の振興」及び「周辺地域の活性化」について、『ひとに関する部会』は地域の連携の視点で「子育て支援と食育」、「福祉・生涯学習」及び「交流の場の創出」について検討してまいりました。

その結果、以下の重点施策を徳山地区地域審議会の提言としてとりまとめましたので、市におかれては、今後の市政運営に生かしていただけるよう切に希望します。

提言1 観光の振興

観光を取り巻く状況が急速に変化している今日、周南市の特徴を活かしつつ観光産業を活性化するため、次の3点をご提案いたします。

【1】まちなか観光交流拠点として、「海の駅」の設置

○観光産業の活性化には、集客力を伴う観光の目玉が必要です。

周南市の特徴や独自性を活かした観光交流拠点の設置は、観光客の呼び水となることが期待されます。

～まちなか観光交流拠点「海の駅」～

- ・場所：徳山港付近（晴海埠頭など）、もしくは徳山駅ビルの中
- ・導入施設：温泉、プラネタリウム、水族館、及び魚市場と連携した施設等
- ・特徴、独自性

(1)新幹線の駅、港及び中心市街地が近く、全国でも恵まれた立地条件

(2)全国有数のコンビナート群が立地（夜景）

(3)ふぐの延縄漁の発祥地であり、ふぐを主体としたブランド戦略を実施中

【2】知名度の高い観光資源発掘のための、既存の観光資源の見直しと、新たな観光資源の開拓

○市内に観光資源は多数存在しますが、全国的な認知度が不足しています。認知度を上げるため、既存の観光資源の選択と集中、並びに新たな観光ブームの火付け役となりうる資源の新規開拓が必要です。

●既存の観光資源

- (1)国内外に人気が高いゴルフ場
- (2)周辺地域に残る美しい自然風景・田園風景、そこに息づく伝統工芸
- (3)周南に縁の深い人物（児玉源太郎等）
- (4)宿泊地としての各温泉

●観光資源の新規開拓

- (1)地元メーカーによるモノづくり体験と工場見学
- (2)エヴァンゲリオン(※)を生かしたまちづくり
(徳山高専ロボット、アニメとの連携)

※ 徳山出身の漫画家貞本義行氏の代表作

- (3) B級グルメや徳山ブランド食材を生かした名産品、料理の開発

【3】広報活動の充実、ならびに各観光資源間、地域間での連携

○観光のブランド化には効果的な広報活動が必要です。また、他の地域と連携して観光振興を促進することは、相乗的な効果が期待でき、単独での観光戦略と比べて、より効率的かつ効果的だと考えます。

●効果的な広報活動

- (1)ICTの活用（魅力的なホームページやブログ等による情報発信）
- (2)徳山駅前電光掲示板の改修（観光情報のカラー映像でのPR）
- (3)観光都市宣言を実施し、周南を全国へPR
- (4)観光に関する民間・個人活動を行政がバックアップ

●観光資源同士・他地域との連携

- (1)観光拠点である「徳山駅」を中心に、各地の観光資源の連携強化
- (2)広島県の「瀬戸内海の道構想」(※)への参加検討

※瀬戸内海に点在する地域資源を相互に連携させ、エリア全体の魅力アップを図る、広島県の地域振興政策

- (3)岩徳線でのSL車両採用による岩国市との観光資源提携構想

提言 2 周辺地域の活性化

少子高齢化、人口の減少に伴い、周辺地域は衰退の危機に直面しています。持続可能な地域社会の構築のため、次の4点をご提案します。

【1】耕作放棄地の市民農園や農作業体験場としての活用

- わが市でも深刻な問題となりつつある、耕作放棄地の拡大、農地の荒廃を防ぐための有効な手段です。
- 団塊世代や若者の「田舎暮らし」に関するニーズに対応でき、U J I ターンの促進にも繋がります。

【2】景観保全により、観光資源として周辺地域の価値向上を図る仕組み作り

- エコツーリズムのブームに乗って、周辺地域を観光資源として有効活用することは、多くの人を呼び込むことによる地域の活性化に繋がります。

【3】農林水産業の活性化のため、生産のみならず、加工、販売までを総合的に行う「第6次産業化」の支援、並びに「農業法人化」の推進

- 若者の「田舎暮らし」への関心は年々増加していますが、農林水産業での自活に対する不安があり、なかなか踏み出せないのが現状です。市が積極的に農林水産業の活性化を支援することで、若者の不安を解消し、U J I ターン希望者の受け皿となることができます。
- 農林水産業の担い手が減りつづける今日、「第6次産業化」や「農業法人化」は、少人数で効率的に当産業を営み、持続させるための最終手段と考えております。

【4】農産物の販路開拓のため、萩市まで続く国道315号沿いに新たな地域交流拠点である北部道の駅の設置

- 「第6次産業化」の推進には、販路の確保が重要課題です。そのため、核となる販売拠点として、広大な北部地区における「北部道の駅」の設置が必要と考えます。

提言3 子育て支援と食育

忙しい現代社会において、子育てに対する一定の役割が社会全体に求められております。そこで、子育て支援に関して、食育を中心に次の2点をご提案します。

【1】妊娠中からの子育て支援体制の確立と、「食育教育」を中心とした支援の取り組み

- 行政が出産前から母親を支援することで、子育てに対する不安を解消します。
- 近年、疎かにされがちな食育に関する知識をしっかりと習得することで、栄養面でも健康的な子育てを行うことができます。

【2】子供を対象とした学校での食育推進プログラムの実施体制の構築

- 生命の源である食の大切さについて考えることで、命の尊さについても考えられる優しい子どもに育ちます。
- 食の大切さを学ぶことで、食べ物の好き嫌いを無くし、健康的な成長に繋がります。

提言4 福祉・生涯学習

「あらゆる人が安心して暮らせるまち」の実現には、社会的に弱い立場の方への支援体制が必要です。そこで、次の2点をご提案します。

【1】地域の情報を民間企業、NPO等へ発信する仕組みの構築

- 地域で発生している問題を各方面へ情報発信することで、行政だけでなく多様な視点から解決の糸口を見出す事ができ、より効果的・効率的な支援体制が期待できます。

【2】地域内の助け合いで交通手段を支えあう仕組みの構築

- バス路線の縮小により増加傾向にある、買い物や通院等が困難な社会的弱者の不安を解消するためには、NPO等が中心となり地域内で買い物の場を創出することや、地域ぐるみで交通手段を支えあう仕組みを構築することが必要です。

提言5 交流の場の創出

わが市の特徴である「多様性」を活かすためには、多様な人材の「交流」が必要です。そこで、交流活動の発展のため、次の2点をご提案します。

【1】地域、世代を越えた様々な団体が交流できる仕組みの構築

- 少子高齢化、人口減少が進み地域活動が衰退している今日、地域や世代を超えた協力体制の構築が、地域活動の維持のためには必要です。
- 地域、世代を超えた交流による多くの人とのふれ合いが、地域の活力や創造力を育て、活性化に繋がります。

【2】利用者にとって利用しやすい交流施設への改修

- 公民館や地域ふれあいセンターをはじめとする既存の交流施設を、利用者のニーズに応じて改修することで、誰もが利用しやすい効率的な施設になり、ひいては利用者に愛される施設となります。
利用者に愛され、多くの人で賑わう施設になってこそ、本来の意味での「交流の場」としての機能が備わるものと考えます。

市におかれては、全ての市民が住み慣れた地域で、いきいきと安心して暮らしを送ることができる地域社会の実現に向け、上記提案事項について、検討、お取り組みいただきますようお願い申し上げます。